

令和5年度 浜松市立三ヶ日中学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果及び考察は別紙のとおり

2 学校関係者評価

2月7日（水）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果及び考察を委員に報告した。また、初めての試みとして、委員が生徒会役員と意見を交換する場面を設けた。委員から挙げた意見は以下のとおりである。

- ① 通学に使用するかばんの変更について、生徒同士で話し合ったことが分かり、自分たちで考えてきたという過程が素晴らしい。
- ② これからの学校生活の改善点を尋ねると、「今以上に、意見を出し合える雰囲気を作り、めりはりのある生活を心がけていきたい」という思いであることが分かり、より期待をもつことができた。
- ③ 「計画的な家庭学習」の調査項目では、できているという回答の数値が保護者も生徒も低い。「大らかで楽観的な地域特性」がその理由の一つではないかという意見も出た。そこは、長所でも短所でもあるととらえ、子どものよさに目を向けて、主体的に学習できるように保護者や先生方と共に子どもたちを育てていきたい。
- ④ 三ヶ日中学校の教育活動は素晴らしいので、地域ぐるみの活動にはさらに多くの人を巻き込んでいけるようにしていきたい。総合的な学習の時間での生徒と地域の方々との関わりをさらに広げ、運営協議会委員の立場を越えて支援の輪を広げるよう努めたい。
- ⑤ アドバイザー会議にアドバイザーの皆さんが積極的に参加できるよう声掛けをして、生徒にアドバイスする回数を増やすことも必要だと思う。
- ⑥ 基本方針やいじめ防止基本方針について具体的な明記があり、協議会全体で理解を深めることができた。来年度も全職員で取組を継続してほしい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

①・②への対応

- ・感染症対策で中止・縮小してきた交流できる場を定期的に設け、自分たちが学校を創り上げているという充実感や成就感を味わわせる。

③への対応

- ・年に6回程度、朝の時間を活用して、基礎的な問題を中心とした国語・数学・英語の小テストを実施する。あらかじめテスト範囲を提示したり、生徒が予想問題を作成したりして、家庭学習の習慣化につなげていく。また、家庭学習が結果に反映する成功体験を積み重ねることによる、学習意欲向上を図る。

④・⑤への対応

- ・本校の特色のひとつでもある「総合的な学習の時間」を改めて見直し、たいへん協力的な保護者や地域をうまく活用していきたい。まずは、職員と生徒が地域人材と交流する場を増やしていきたい。

⑥への対応

今後も「三ヶ日中学校いじめ防止基本方針」を全職員に周知させ、毎日が楽しいと思える学校づくり、（保護者が）通わせたいと思える学校づくりに力を入れる。学校が子供にとって安心できる場所となるよう、傷ついている子供を守り、子供たちがここに居場所があると感じることで、自己肯定感が高まるよう環境を整えていく。